

保護者様

令和３年３月２２日

京都市立大原野小学校  
校長 市川 幸司

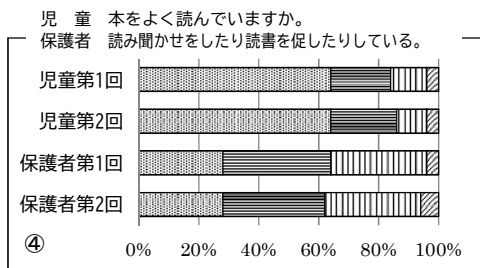
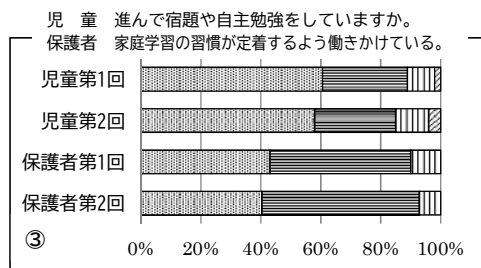
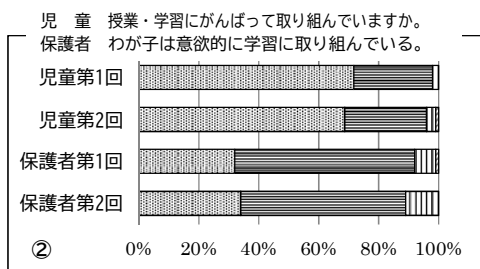
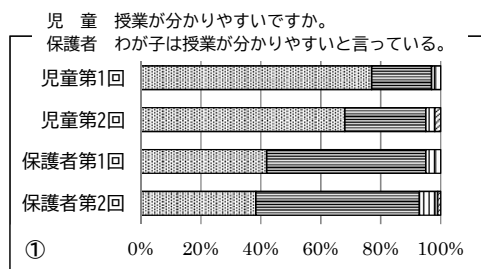
## 令和２年度 第２回

### 京都市立大原野小学校学校アンケート結果

昨年１２月に児童・保護者・教職員を対象に２回目の学校アンケートを実施しました。保護者の皆様にはお忙しい中、ご協力いただきありがとうございます。今回は第１回のアンケート結果と比較し、お知らせいたします。この結果を今後の取組に生かし、さらによりよい大原野教育を進めていきたいと思ひます。今後とも、本校教育にご理解いただきますようお願い申し上げます。

■ そう思う ■ 大体そう思う ■■■ あまりそう思わない ■ そう思わない

## 「確かな学力」について



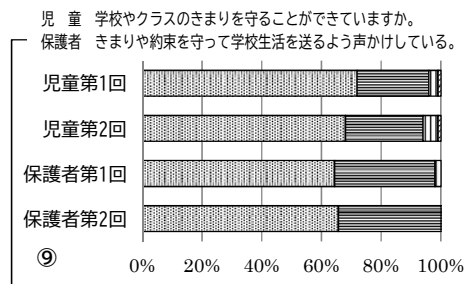
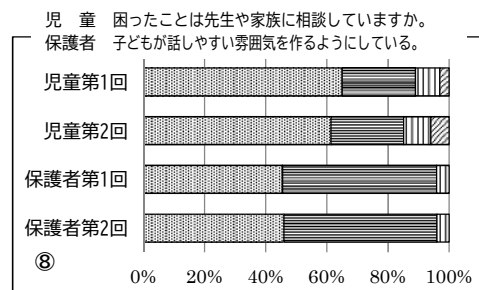
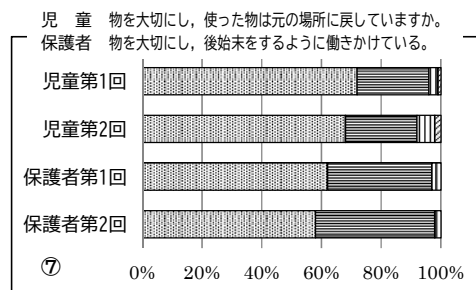
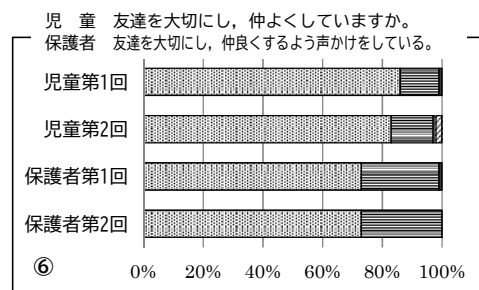
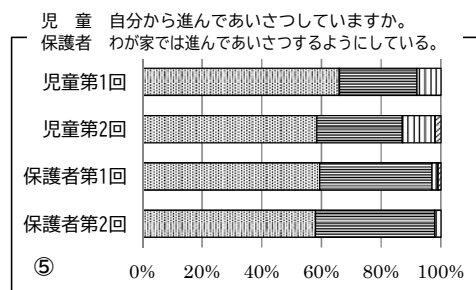
①の項目「授業の分かりやすさ」については、児童が９５％、保護者が９２％「そう思う」「大体そう思う」とプラス評価しています。これは毎時間、授業の「めあて」を児童がしっかり意識して学習に取り組み、振り返りを行った成果だと考えます。また、教員が複数で指導したり、個別に対応したりすることを積極的に取り組んできたことや、具体物を使った操作活動を取り入れたり、様々な場面でＩＣＴ機器を活用したりして、児童が分かりやすい学習展開を工夫してきたことも成果であると考えます。しかし、１回目に比べ、児童は２％、保護者は３％プラス評価が減少しています。これは、１単位時間が４０分になることで、例年より短い授業時間の中で学習を進めなければならなかったことも原因の一つと考えます。児童達の「分かった」「できた」が増えるよう、これまでの取組をさらに充実させることはもちろん、密にならないことを意識しながらペア学習やグループ活動を計画的に授業で取り入れたり、みんなの前で発表する場を設けたりして、児童達が自分の考えを交流し合えるようにしていきます。また、来年度より本格実施の「ＧＩＧＡスクール構想」により、児童一人一人がタブレット端末を活用しながら、きめの細かい学習を進めてまいります。

②の項目「授業や学習にがんばって取り組んでいる」については、児童が９５％、保護者が８９％「そう思う」「大体そう思う」と回答しています。今年度、様々な学習活動が制限される中、児童が「達成感を味わう」ことができるように「継続すること」や「自主的に行動すること」を意識して、教育活動に取り組んできました。

た。児童が自ら「がんばっている」と答え、保護者の方からは制限される取組の様子からでも意欲的に取り組んでいると回答していただき、一定の成果がみられたと思います。しかしながら、児童では２％、保護者では３％がマイナス評価となっています。今後も一人一人が自主的に学習に取り組むように授業を工夫していくと同時に、マイナス評価をした児童について、「がんばっている」と思えるように、これからもできる限りの工夫をしていきたいと考えます。

③の項目「家庭学習について」では、児童が８５％、保護者が９２％プラス評価しています。たけのこ学級・１・２年生は普段の授業から、学習には積み重ねや繰り返しによる定着が必要であることに気が付いたことで、家庭学習を大切にするようになったと考えられます。３～６年生では「自主勉強ノート」を持ち、学校からの宿題だけでなく学年に応じた家庭学習をすることをすすめてきました。また、「家庭学習の進め方」としていくつかモデルを提示したり、参考となる児童の「自主勉強ノート」を紹介したりしました。このような取組がプラス評価につながったと考えます。ただ、児童のうち、３～６年生では、２３％がマイナス評価をしていることは見過ごせません。今後も家庭と連携し確かな学力に向けて様々な角度から働きかけたいと考えます。

## 「豊かな心」について



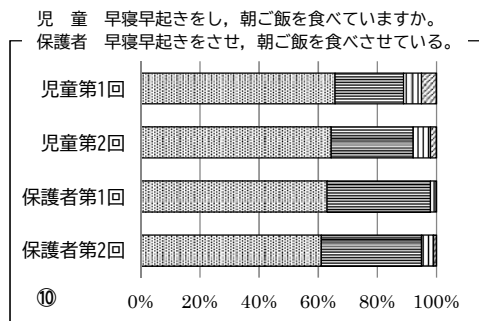
⑤の項目の「あいさつ」については、「そう思う」「大体そう思う」のプラス評価が、児童では４％減りました。コロナ禍の中、大きな声を出しにくいということも減少の理由と考えることもできますが、大きく元気な声でなくとも、「気持ちのいいあいさつ」はできます。自分も相手も気持ち良くなるあいさつをしていけるよう、声かけをしていきたいと思ひます。

⑥の項目の「友達を大切にする」では児童の９７％が「そう思う」「大体そう思う」と回答しました。いじめや友達関係について年４回アンケートをとり、「先生と話そう月間」として、アンケートを基に担任が児童と個人面談をする機会を作ったり、道徳科や毎月設けている「つながりの日」の学習を通し、人権学習を進めたりした成果だと考えます。保護者の方からも１００％「友達を大切に、仲良くするよう声かけをしている」と回答がありました。学校では終わりの会などに一日を振り返り、友達のいいところ見つけをしたり、クラスで取り組んだ学習活動や学校行事などでの友達の良かったところやがんばったことを「きらきらカード」に書いて渡す「きらきら見つけ」をしります。児童達は、この「きらきら見つけ」を大変楽しみにしています。このように、学校生活を通して、子ども同士がお互いに認め合い、一人一人をかけがえのない存在として大切に、正しいことを自分で考え、判断して行動することを意識して取組を進めてきました。ただし、個々を見ると、気になる部分もありますので、教職員もしっかり意識をして、これからも取り組んでいきたいと思ひます。

⑧の項目「困ったことを先生や家族に相談する」では、保護者のプラス評価が増えましたが、児童は減っています。そしてその傾向は、上の学年ほど顕著です。悩んだり困り事があったり、高学年になると恥ずかしがったり、周りの目を気にしたり、家族に心配かけたくないという気持ちが出てきたりして、相談できずにいる児童もいます。学校では、「先生と話そう月間」を設けて、定期的に児童達と面談をする機会を作り、安心して話せる場を設けています。また、高学年では、「さよならノート」の取組をしています。「さよならノート」は、今日一日の出来事や思っていること、担任に伝えたいことなどを児童が書き、担任がそれを読んでコメントを書いて返す、というものです。担任と児童との一対一のやりとりができ、児童は、そのノートに悩んだり困り事を書いて担任に知らせることができます。これからも「見逃しのない観察」「手遅れのない対応」を心がけ「心の通った指導」を進めていきたいと考えています。

⑨の項目「きまりや約束を守る」では、⑧の項目と同様の結果になりました。児童の規範意識の低下が気になります。児童の規範意識を高めるために、学校では、児童主体で学校生活の約束を話し合ったり、定期的に持ち物や遊びの約束を確認したり、児童会が中心になって「今月のがんばろう目標」を決定し、全校児童に意識して行動するよう働きかけたりしています。みんなが気持ちの良い学校生活を送るためにルールがある、ということを実感できるよう、保護者の皆さんと一緒に指導していきたいと思ひます。

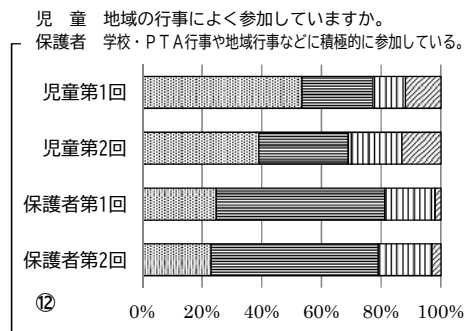
## 「健やかな体」について



基本的な生活習慣について尋ねた⑩の項目では、保護者に比べ、児童の「早寝・早起きをし、朝ご飯を食べる学校にきている」のプラス評価が低かったです。ただし、児童の１回目（８８％）と比較して９３％と、５％増えています。「あまりそう思わない」「そう思わない」とマイナス評価をした児童は、数は少ないものの高学年（８％）だけでなく、低学年児童にもいました（７％）。明るく元気に学校生活を送る上で、「早寝早起き朝ごはん」は大切です。「保健だより」、「給食だより」、夏休み・冬休み明けの「自分の生活を見つめてみよう週間」の取組を参考にいただき、ご家庭でも引き続き基本的な生活習慣について話題にいただき、家庭と学校が連携して児童の健やかな成長について取り組んでいきたいと考えています。

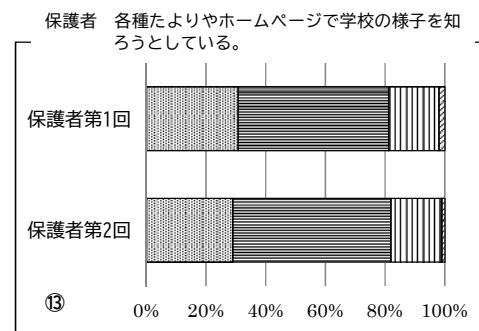
⑪の項目の「安全に気を付けて行動する」については、保護者のプラス評価が１００％なのに対し、児童のマイナス評価が増えているのが気になります。何よりも大切にしなければならないのは命です。学校では、毎月１５日を「安全の日」と定め、安全ノートを活用して安全学習を行っています。また、避難訓練は命を守る

大切な学習であることを伝え、真剣に取り組んでいます。今後も自分の体や命を大切にすることは、周りにいる人の体や命を大切にすることにも繋がることを機会があるごとに伝えていきます。



⑫の項目については、コロナ禍の影響で、PTAやおやじの会が主催の行事も軒並み中止になり、大変さみしく思ひます。楽しみにしていた児童もいただろうと思ひます。来年度は開催されることを願うばかりです。

⑬の項目については、個人情報等に配慮しながら、児童の様子や学校の様子を各種たより、ホームページ、メール配信等で保護者の方や地域の方に伝えていきます。



## その他（学校運営協議会で頂いたご意見を載せています）

- ・授業時間が短縮されたことで、授業の中でのまとめや振り返りの時間が割愛されている部分もあるかもしれないが、理解し、覚えるという点では、やはり家庭での学習が重要だと思います。
- ・学校での様子は、大部分が自身の子どもの話でしか保護者には伝わりません。参観や懇談会が中止となっている現状では、見えにくくなっているというところもあるのではないのでしょうか。
- ・コロナ禍の中でも、子ども達の笑顔が曇ることなく元気に過ごしているのも、教職員を始め学校関係者の方々の日々の努力のおかげだと感謝しています。
- ・コロナ禍で学校が１か月以上の休校となり、宿泊学習や運動会などの行事が中止・変更・縮小され、大変だったと思ひます。また、授業時間の確保のため７時間授業の実施など、学校の先生方のご苦勞に理解できます。
- ・学校から案内のあった行事には、可能な限り参加しました。自由参観では、６年生の道徳の授業を参観しました。「大文字駅伝」の教材で、目標をもって努力する大切さは、子ども達の心に十分響いたと思ひます。道徳という教科は難しいものですが、指導者の思いはしっかり伝わっていたと感じます。校内作品展にも参観させていただきました。広い体育館を利用して、全校児童の作品が見やすいように工夫して展示されていました。

## 最後に

全体的に「そう思う」「大体そう思う」のプラス評価が児童・保護者とも高かったのですが、ほとんどの項目で１回目を下回る結果となりました。そうなった理由として、やはり新型コロナウイルス感染拡大が影響を及ぼしているのではないかと考えられます。ほとんどの学習活動で制限がされ、学習発表会や運動会、宿泊学習などが中止・縮小となり、児童たちも大変残念な思いをしていたのではないのでしょうか。しかし、コロナ禍という特殊な状況であっても、児童の「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」の育成は揺るがせにはならないと、私たちは考えます。本校がこれまで大切にしてきた「児童の自己肯定感を高める」取組を、日頃の学習活動の中でこれまで以上に工夫をしながら、実践していきます。

今後とも、大原野の児童の学びと育ちのため、保護者の皆様と共に取り組んでまいりたいと思ひますので、ご理解とご協力を願ひします。